

八溝杉を使用した一般住宅



実施事業 ▶ 福島県産造作材の生産計画

有限会社 わたなべ

企業情報

〒963-6204 福島県石川郡浅川町大字浅川字本町73 ☎0247-36-3105 FAX 0247-36-3885
http://www.uwatanabe.jp E-mail uwatanabe@cocoa.ocn.ne.jp

事業者名 ▶ 代表取締役 渡辺 章
設立年月 ▶ 1988年4月 資本金額 ▶ 300万円 従業員数 ▶ 10人

会社概要

明治35年創業の渡辺家具指物店が、当社のルーツです。渡辺家具店へ屋号を変更したのは昭和42年。昭和63年に現社名となり、法人化。平成15年には100周年を迎え、長らく地域に根ざして技術と信頼を育んできました。快適で心地よい空間づくりをモットーに公共施設や商業施設、一般住宅など、さまざまな建物の「研築」に携わっています。その時代、その時代にふさわしい匠の技を発揮して木工事・建具工事・内装工事、さらに新築・リフォーム・リノベーションと幅広く御用命に応えています。



自由度の高い加工で、すっきり美しい柃目の集成材を

県産材を活用して林業活性化、地域経済に役立ちたい



油圧ハンドシリンダー

木工事は、県産材を指定する仕様が多くあります。しかし内部造作は輸入材…というケースも少なくありません。福島県内は林産資源に富むにも拘らず、そうした使い道に適する素材が見当たらないのが理由です。そこで県産材を加工し、内部造作に適する材料を作ろうと考えて油圧ハンドシリンダーおよびコンセプトモルダーを導入。サイズも材質も問わず、幅の広い集成材を効率的に製作できる環境を整えること、そして市場性に富む多品種化を目指しました。八溝杉の良い部分を柃目に重ねて貼り合わせます。色合いも揃えられ長さ4mまでは長さ方向のジョイントを無くせます。また、レンガ積み型で組み立てれば限りなく長尺物の巾はぎ材が作れます。

輸入材の価格は為替相場に左右されます。しかし県産材なら、そのリスクを回避して仕入れコストの低減・安定を見込めます。

木材に対する精密加工技術を高め、ユーザーからの

多様な要望に対し、立体造形のデザイン性も重視



コンセプトモルダー

油圧ハンドシリンダーは、レバー操作で加圧を微妙に調整でき、定尺寸法への対応も全面的に可能です。4000ミリまで製作でき、窓枠・柱・床に至るまで、一般建築の内部造作へ十分に対応できます。さらに、公共建築に於ける材料の選択肢も広がります。これまで使用していた輸入材では、発注から納品までの日数を要していました。これに対し、地元から資材を調達することで待ち受け時間が大きく解消され、しかも自社で加工することにより納期短縮が可能となりました。

コンセプトモルダーは刃物の交換ほか、従来なら4分割していた作業工程を1工程で済ませられます。R加工といった微妙な作業もスムーズで、現場スタッフの負担を軽減できます。加えて、お望みの形や意匠に生まれ変わらせます。この革新的な生産設備は、新たな担い手の確保へ向けたアピール要素でもあります。

集成材の加工可能な長さは、2500ミリから4000ミリまで

6軸モルダーだから四面加工も、成型面取加工も1工程で

サッシ額縁を10本、試作品として製作。油圧ハンドシリンダーで集成材を加工できる長さが2500~4000ミリと、内部造作サイズのほとんどを賄えるようになりました。一般住宅のみならず公共施設の仕様にも十分に対応できることが分かりました。輸入材を利用する場合、納期は1週間ほどですが、地元材を自社加工すると2日で済ませられる点も大きな成果です。建築内装材を加工する、コンセプトモルダーの導入効果も著しく表れています。汎用機だと、工程が変わるたびに加工材料を移動しなければなりませんが、こうした手間が省けて1工程で完結できます。

4面加工は、設置→ムラ取り→カネ決め→幅決め→厚決め→仕上がり。また成型面取加工は、投入→ムラ取り→カネ決め→幅決め→厚決め→一面取り→溝突き→仕上がり、という流れです。



モルダー後の状態

“わたなべオリジナル仕様”の造作材を福島から全国へ

「輸入材より国産材」というニーズや価値観も広める

地元産材である八溝杉を使った巾はぎ材。これまで一般的だった輸入木材に替えて地産地消の観点から、その導入を同業である建築会社などへも促していきます。



木の香りとぬくもりを感じる自社物件の木造アパート



自社物件への使用はもちろん、将来的には当社が加工・販売元となり、さまざまな造作材を供給する仕組みを立ち上げる計画です。“わたなべオリジナル仕様”の造作材を使ってもらうと、自ら輸入材を仕入れて加工する手間を省けるので各地からの需要が見込め、全国展開も考えられます。ゆくゆくは「輸入材より国産材」というニーズや価値観が定着し、すぐれた地元産の認知度が上がることを目指します。

Comment

さまざまに加工、活用できる
優良木材の
地産地消

代表取締役
渡辺 章



当社が工事に携わる際、約80%が木工事へのオーダーです。福島県のほか、栃木・茨城といった近県、首都圏でも実績を重ねてきました。しかし、アメリカやロシア産の材料で、中国で造った紅松集成材を用いるケースがほとんど。そこで着目したのが、地元産材の地産地消を通して森林資源の有効活用を図ること。茨城・栃木との三県合同ブランド「八溝杉」を活かした巾はぎ材は、自社物件である戸建住宅やアパート、三春町内(環境創造センター整備(A施設研究棟建築)工事)と福島市内(福島大学環境放射能研究所新館その他)にも採用していただいております。